

2016年度外部評価委員会の提言について（回答）

2016年度の外部評価委員会は、「教養教育の在り方」をテーマとして実施されました。同委員会から提言としていただきました評価、指摘および助言について、対応状況を報告いたします。

【はじめに】

本学の「教養教育の在り方」について、特に自己点検・評価の実施状況に関する全般的な指摘として、自己点検・評価の前提となる PDCA への取り組みについて、特に「P」に必要な到達目標設定が全般にわたって明確になっていない、というご指摘につきましては、以下のように対応しております。学長をトップとし副学長・各学部長・教養教育センター長から成る教学改革推進本部会議において、大学全体における教養教育の位置づけの検討を開始し、今後は各学部教授会の意向も反映しながら、本学の教養教育の在り方および到達目標の明確化につきまして議論を重ねてまいります。

「現状把握」はなされているものの、ほとんどの項目において改善すべき「問題点はない」となっており、自己点検・評価が目指している「大学改革」にはつながらない、というご指摘につきましては、真摯に受け止めたいと思います。今回の外部評価委員会に向けた自己点検・評価のレポート作成の過程において現状把握に傾倒したことが要因であり、問題点を洗い出す作業が不十分であった点は否めません。今後は問題点を洗い出したうえで大学改革に繋がるよう努めてまいります。

これまでの自己点検・評価結果に対する改革の取り組みがどのような成果を具体的にもたらしたかのエビデンスが明確ではない、というご指摘につきましては、本学ではこれまでの自己点検・評価結果に対する改革の取り組みとして FD 活動の強化や学長主導のアクティブラーニング環境の推進など、目に見える形での成果も上がりつつあります。今後は、改革の成果をより明確にすべく IR の活用を進めてまいります。

【基準1 理念・目的・教育目標・カリキュラムポリシー】

キリスト教系の大学としての理念が明確で特徴的であり、大学としての個性や存在意義が際立っている点を高く評価いただきましたが、一方で、理念から目的・教育目標・カリキュラムポリシーへと展開される体系性、接続性がはっきりしておらず、それぞれがバラバラな印象である、とのご指摘を頂きました。本学の教養教育科目には既にナンバリングが施されており、教養教育科目内での体系性は担保されていると考えるものの、教養教育の教育目標とカリキュラムポリシーの接続性は分かり辛い点をご指摘の通りであり、問題を解決すべく、2018年度に教養教育科目のカリキュラム改編を実施し、そこでカリキュラムマップの作成を行い、理念から教育目標・カリキュラムポリシーを明確にすることで、体系性・接続性を担保したいと考えております。

教養教育のカリキュラムポリシーと学部専門教育との連携が不十分であり、教養教育科目はバラエティに富んでいるものの、相互のつながりが明確でないだけでなく、学部教育

と一体となったカリキュラムポリシーに基づく体系的な学習の姿が見えていない、というご指摘につきましては、現在、教学改革推進本部会議において学長・副学長と各学部長・教養教育センター長との意見を交えながら教養教育科目のカリキュラム改編を進めているところであります。各学部によって学部教育と教養教育科目の連携性に関する考え方は異なりますが、十分な意見交換を行って、教養教育のカリキュラムポリシーと学部専門教育との連携性・体系性が担保された教養教育科目のカリキュラム改編を進めているところであります。

カリキュラムポリシーが教員や学生に十分に理解・共有されているのか疑わしい、とのご指摘につきましては、2018年度の教養教育科目カリキュラム改編に向けて、現在、カリキュラムマップの作成や各科目の能力要件の洗い出しを進めているところであります。その過程において、各教員へのカリキュラムポリシーに関する理解の深化を計りたいと考えております。また、学生につきましてはアンケート等の活用によりカリキュラムポリシーの理解度を計ることを検討しております。

教養教育を担う組織が教養教育センターと各学部に分離しており、かつ全学意思決定が全学共通科目教育機構となって、いわば二重、三重構造になっていて、機能不全を起している、という組織上の問題に関するご指摘につきまして、他の項目においても同様のことを厳しくご指摘いただきましたが、本学におきましても教養教育を担う組織の二重構造・三重構造の問題は十分認識をしており、組織的な在り方などを含めて今後検討してまいります。

【基準2 教育課程および教育内容】

本学の教養教育に関する個々の教育内容は大学の理念に合致しており、多種多様な科目群が用意され、アメリカ型のリベラルアーツ教育的な目的に合致した本学の特徴を社会的にアピールするものとして高い評価を頂きました。一方で、カリキュラムマップ作成による学生の体系的な履修体制の確立についてご助言を頂きました。また、現在の教養教育科目は学生の自主的な履修に任せていることによる「虫食いの」な履修、および学部専門教育との接続性が問題である、というご指摘も頂きました。これらにつきましては、現在、教学改革推進本部会議にて各学部からヒアリングを行い、各学部からのフィードバックを基に2018年度の教養教育科目カリキュラム改編に反映させることで、カリキュラムマップ作成による体系的な履修を担保し、学生の断片的な履修の改善と学部専門教育との接続性の強化を目指しているところであります。

初年次教育としてのアカデミックリテラシーの重要性に基づき、アカデミックリテラシーを新入生全員に受講させる、あるいは全学的な展開を図ることのご助言につきましては、本学におきましてもアカデミックリテラシー教育の必要性を認識しており、2018年度からはアカデミックリテラシーの履修可能な人数を増やし、且つTAを配置することで質・量とも担保する方向で進めております。

【基準3 教育方法】

卒業要件単位の50%以上を教養教育科目が占めるというのは、もはや「教養学部」という位置づけになるのではないかと、というご指摘につきましては、まずは実態を調査した上で、各学部で定めている卒業要件単位の占める「フリーズゾーン」の在り方を検討することから始めてまいります。

各学部の専門科目と教養教育科目の連携が乏しいという状況を鑑み、学部のカリキュラムポリシーを再構築しつつ、さらに学部教育のカリキュラムにおける個々の教養教育科目の位置づけ・内容をはっきりさせることが必要である、というご指摘につきましては、先の項目でも類似のご指摘を頂いております。既に回答いたしました通り、教学改革推進本部会議にて各学部のヒアリングを行い、学部からのフィードバックを基に2018年度に教養教育科目の改編を行うことで、学部教育における教養教育の位置づけを検討しているところであります。

授業形態のアクティブラーニング化による学生の自主的な学びの涵養、アクティブラーニングの全学的な実施を推進するため組織的なFDを加速度的に進めること、アクティブラーニングを行う目的や目標を明確にすることのご提案につきましては、本学においてもアクティブラーニング環境整備の重要性は認識しており、本学のアクティブラーニングのハブとなる全学的な学習支援体制の構築とFD体制の強化を検討しているところであります。

学習状況が不十分な学生に対してオフィスアワーで対応しているが、問題を抱えた学生は総じて積極的に相談に来るわけではなく、問題を抱えた学生への対応についてはピアサポート体制を作るなどの工夫も必要である旨、ご提案を頂きましたが、本学では学習状況が不十分な学生の対応については、既に学科主任による面談や学生相談センター等でサポートしており、現時点ではピアサポートの導入は考えておりません。

【基準4 教育成果】

教育成果については「確かな思考力と表現力」などといった抽象的な達成目標が設定されているだけで、達成できたかどうかの設定・評価ができない、というご指摘につきましては、本学では現在、3ポリシーの再検討と能力要件の洗い出しを進めており、その過程において、ご指摘いただいた事項につきましても対処する方向で進めております。

本学での教育成果の測定は学生による授業評価のみに依存している現状を鑑み、ルーブリックやポートフォリオなどを活用した客観的で具体的な評価の方法や指標を用いること、及び学生が身につけるべき「能力」をより具体的、明確に学生自身がわかるような指標として、「Can-Doリスト」を活用することのご助言につきましては、本学では既にスペイン語の授業で「ポートフォリオ」を活用するなど一部の授業において導入が進んでおります。まずは段階的に語学教育において「ポートフォリオ」あるいは「Can-Doリスト」等の活用について検討いたします。

【基準5 担当組織・教員】

教養教育の担い手が教養教育センターと各学部に分離しているために、全学共通的な教

養教育が明確に設計・運用されているようには見受けられない、教養教育センターと各学部、そして各学部専門教育へとつなげる「アンブレラ」となる全学共通科目教育機構は、学長のリーダーシップの下にその機能を発揮すべきものとして設計されたはずであるが、結果としてその機能が十分に果たされていない、という点につきましては、先の項目でも類似のご指摘を頂いております。既に回答いたしました通り、教養教育を担う組織の構造上の問題は十分認識しており、組織的な在り方などを含めて今後検討してまいります。

【おわりに】

教養教育における個々の教育活動は秀でていると見受けられるものの、理念から教育目標、カリキュラム体系への「縦」の接続性、あるいは教養教育と専門教育、あるいはカリキュラムと実際の学生の履修状況といった「横」の接続性がともに十分ではなく、それぞれが孤立している、というご指摘を頂きました。先の回答との重複にはなりますが、教養教育の教育目標とカリキュラムポリシーの接続性については、2018年度に教養教育科目のカリキュラム改編に合わせてカリキュラムマップを整備し、理念から目的・教育目標・カリキュラムポリシーを明確にすることで「縦」の接続性を担保し、教学改革推進本部会議において学長・副学長と各学部長・教養教育センター長との意見を交えながら、教養教育のカリキュラムポリシーと学部専門教育との「横」の連携性についても検討しながら、教養教育科目のカリキュラム改編につなげていきたいと考えております。

大学本部の方針や改革への取り組みが学部等の現場に浸透していないのではないか、というご指摘につきましては、大学本部の方針や取り組みが明確であるかを教学改革推進本部会議にて再検証し、各学部教授会と連携しながら学部等に浸透するよう努めてまいりたいと考えます。

既に複数の項目にて同様のご指摘を頂いておりますが、「特に問題なし」と考えている箇所が多いことは、自己点検・評価を踏まえた改革への必然性の理解が乏しいとともに、改革への熱意がやや希薄なのではないか、というご指摘につきましては、今回の「教養教育の在り方」の自己点検・評価レポートを作成する過程において、現状把握に傾倒して、問題点を洗い出す作業が不十分であったことは否めません。今後は自己点検・評価を踏まえた改革へのより一層の意識向上に努めてまいりたいと考えております。

以 上